

出張報告書（オランダ、ウィーン、テッサロニキ）

増 谷 英 樹

9月2日に成田発、ウィーン経由でアムステルダムに入る。ここでの仕事はオランダ帝国博物館の Kees Zandvliet 氏に会うことであつたが、氏が出張のためアムステルダム滞在の最終日にならないと会えないことが判明、その間は海洋博物館をまわり、翌日は東インド会社の帰国船が真先に寄り、積み荷の一部を販売したといわれるホールンを見てくることにした。博物館もあるという。電車で1時間半程度でホールンに着き、自転車を借りて町を見ることにした。町の中心は港に近いところにあり、市庁舎や税関の建物が残っており、その規模もかなり大きく、当時の市民と貴族の力がかなりのものであつたことを物語っている。博物館は木造4階建ての市庁舎内にあり、規模はそれほどではないが、この町の規模にあつた展示がみられた。町に関するパンフを手に入れる。港はそれほど大きくはないが、外海を避けた大きな湾を形成していて、かなりの船が発着可能である。

翌日は古本屋をまわる。現在は大学の建物になっている元の東インド会社の本社のビルの近くに数件の古本屋があり、そのうちの1つ Antiquariaat A.Kok &ZN. がかなり大きな店と倉庫をもっており、結局午後からはずっとこの書庫にいることになった。WEB上に在庫リストを公表しているので ([www.nvva.nl/kok](http://www.nvva.nl/kok)) かなりの本は検索できるが、当然できないものもあり、原物を手にとって見た方がイメージもわくし、内容もはっきりとする。結局、L'Honore Naber, S.P., *Reisebeschreibung von deutschen Beamten und Kriegsleuten im Dienst der niederländischen West- und Ost-Indischen Kompagnien 1602-1797*. Herausgegeben von S.P.L'Honore Naber. Haag, 1930-1932. 13vols という東インド会社のドイツ人官吏の記録集と東インド会社の出している各地の絵画と海図のリプリント版 *Vingboons, Johannes, Atlas van kaartenen aangezichten van de VOC enWIC, genoemd Vingboons-Atlas in het Algemeens Rijksarchief te's-Gravenhage. Reprint Haarlem, 1981.* をリザーブしておいた。店員の知識度も高く優秀な古本屋であつたので、今後のための連絡はつけておいた。なお、丸善との関係は悪く、取り引きは紀伊国屋か一誠堂がよいとのこと。

Kees Zandvliet 氏は帝国博物館の研究員であり、東インド会社に関する研究論文もあり、Tanap Project の推進者の一人であるが、研究員としての仕事に忙しいらしく、最終日の昼休みにようやく会うことができた。博物館の食堂に案内され、

食事をしながら1時間半ほどの話ができた。我々のプロジェクトについて大凡説明した後、Tanap Project が我々の計画のひとつの手本になりそうであるので、日本にきてシンポジウムで話して欲しいともちかけた。Zandvliet氏は、Tanap Project について簡単に説明してくれた後、自分は多忙で出かけられないし、むしろライデン大学のLeonard Blussé教授とデン・ハーグのNational ArchivesのPieter KoendersないしFrancien van Anrooijの両氏の名前をあげて、彼らの方が適任であるとのアドバイスをくれた。デン・ハーグのNational Archivesの話しや、史料編纂所の話しなどをし、今後の協力を約して別れる。日程に関係でデン・ハーグやライデンには出かけられずにアムステルダムを後にする。

ウィーンを経てテッサロニキへ。ここではテッサロニキ・ユダヤ博物館を訪ねることであった。しかしこのユダヤ博物館は、数年前に市場の真中から、100mほど離れた新しい建物に移転していたため、探すのには時間がかかってしまった。博物館の1階は、紀元前からあったテッサロニキのユダヤの墓の再現された展示があり、2階は主としてセファルディウムの歴史が展示されている。2階の展示は大変面白く、15世紀に約2万5千から3万人のセファルディウムがイベリア半島からやってきた以降の歴史がかなり詳しく展示されていた。

その後、テッサロニキはアテネとは別個に、バルカンを通じたヨーロッパと東方の交易を中継する重要な都市に発展するが、その交易にユダヤ教徒は重要な役割を果たしていたようである。彼らの住居が港を背景とした市の中心に集中していたことは、そのことを如実に示していた。32のシナゴグをそなえた教団があったというそうした発展の過程のなかで、第一次大戦の最中の1917年の市の中心部（ということはユダヤ教徒の街）がほとんど焼け落ちた大火は、彼らに大きな打撃を与えた。その打撃からようやく立ち直ってきた頃、1941年にギリシアはドイツおよびイタリア、ブルガリアに分割占領される。テッサロニキはドイツに支配下に入り、4万9千人の「ユダヤ人」は「最終的解決」のために「死の収容所」に送られた。テッサロニキの96,5%が主としてアウシュヴィッツの収容所に送られたが、それを指揮した一人がオーストリアの元大統領ヴァルトハイムであったことは、それほど知られたエピソードではないが、僕には感慨深いものがあった。

博物館には図書室もついていて、ある程度の本や史料が並べられている。イーディッシュの教室もあるようだった。何冊かの本も売っており、フランス語の『テ

『ツサロニキのユダヤの歴史』という数巻の本を手に入れる。その後、いくつかの本屋をまわったが、ユダイカを置いてある店は1軒もなかった。いくつかの博物館ものぞいてみる。

ウィーンにもどり、古本屋まわりをする。言葉が分ることはやはりありがたい。数件の古本屋を回ったが、アジアの旅行記などを数多く置いているのは、Antiquariat Löcker([www.loeckeruloecker.at](http://www.loeckeruloecker.at))であり、以下の文献をリザーブしておいた。

Eberhard=Joachim, Graf v. Westarp, Unter Halbmond und Sonne. Im Sattel durch die asiatische Türkei und Persien, Berlin 1913.

Dr. Karl von Scherzer, Reise der Oesterreichischen Fregatte Novara um die Erde, in den Jahren 1857, 1858, 1859, unter den Befehlen des Commodore B. von Müllerstoxf-Uxbix, Wien 1864.

Otto E. Ehlers, Im Osten Asiens, Berlin 1896.

Hans Bachgarten, Aus Einem Schiffstagebuch. Zwei Jahre in Japan und China, Pola 1911.  
Herrn Pitton von Tournefort königlichen Rath's u. Beschreibung einer auf königlichen Befehl unternommenen Reise nach der Levante. Aus dem Französischen übersetzt, Erster Band, Berlin 1776.

T.T. Cooper, Reise zur Auffindung eines Ueberlandwegs von China nach Indien. Aus dem Englischen, Jena 1877.

Tudw. Aug. Frankl, Nach Jerusalem! Erster Theil. Griechenland , Kleinasien, Szrien, Leipzig 1858.

Lic. H. Hackmann, Vom Omi bis Bhamo. Wanderungen an den Grenzen von China, Tibet und Birma, Zweite Aufgabe, Berlin 1907.